

「がんばろう ふくしま応援プロジェクト」の展開

～ひのきスポーツクラブ（福島県南会津町）の試み～

ひのきスポーツクラブ 湯田賢史

東日本大震災発生から2回目の3月11日が過ぎ、2年という時は経過しても、県内テレビニュースや新聞などのメディアを通して流れる情報は、放射性物質の除染や避難区域への帰町・帰村問題、人口流出や賠償問題等々、原子力発電所事故が発生した福島県の復興は、まだまだ先が見えない状況が続いています。

ひのきスポーツクラブのある南会津町は、福島県の南西部にあり、栃木県と接し新潟県にも近い地域です。深刻な状況下にある福島県ですが、当クラブでは、地域之力、スポーツ之力を最大限活用し、被災者さらには福島自体も元気にしようと、震災後から「がんばろう ふくしま応援プロジェクト」を展開しています。

今回は、その取り組みについて紹介させていただきます。

～子ども達にスキーを楽しんでもらおうプロジェクト～



雪上運動会で「雪玉入れ」で競い合う子ども達

当クラブは、地域柄スキーが盛んでスキー指導者も多いことから、去年はスキーを中心とした2つの事業を実施しました。1つは、一般社団法人日本アスリート会議との共催による「ウォームアップジャパン in 会津・ふくしま大運動会」、もう1つは「春休み・スキーを楽しんでもらおうプロジェクト」という名の雪上イベント。

「ふくしま大運動会」では、原発事故の影響で会津若松市に避難している大熊町の子ども達を対象にトップアスリートとの交流の機会を提供し、一方の「スキーを楽しんでもらおうプロジェクト」では、

避難はしていないものの、放射線の影響で、外で十分に遊ぶことのできない子ども達を招待して、スキー体験や雪上運動会を通して外で思い切り体を動かす場を提供しました。

今年度はさらに回数を増やし、1月から3月まで毎月40人程度の子供達を招き、スキー体験の他、雪原を冒険するアニマルトラッキングなども織り交ぜながら1泊2日の事業を実施しています。

～パパと一緒に大冒険～

原発事故の影響で、外で思い切り遊べない子ども達に、大自然の中で、しかもお父さんと一緒に冒険をさせようと、福島大学との共同で実施した事業です。

参加した親子には、イワナのつかみどりやザリガニの一本釣り、渓流を登って行くシャワートレッキングなど、全部で7つのミッションを次々に提示。最初は戸惑い、生き物に触れることもためらっていた子ども達も次第に慣れ、数々のミッションをお父さんの力も借りながら乗り越えていました。

数日間のプログラムの最終日には、参加した子ども達が少したくましくなった様子が感じられました。



親子で力を合わせて渓流シャワートレッキングに挑戦。久しぶりに触れる自然で、子ども達は思い切り体を動かして楽しみました

～夏の冒険王プロジェクト～

原発事故の影響で離れてしまった福島自然、忘れかけた自然に触れ、もう一度福島の良さを思い出してほしいという思いから生まれた事業です。これまで夏休みに実施していた自然体験プログラムを1泊2日のプログラムに集約し、夏空の下で鬼ごっこや川遊び、夜はホタル観賞ナイトウォーク等を実施する事業で、今年度で2回目の開催となりました。

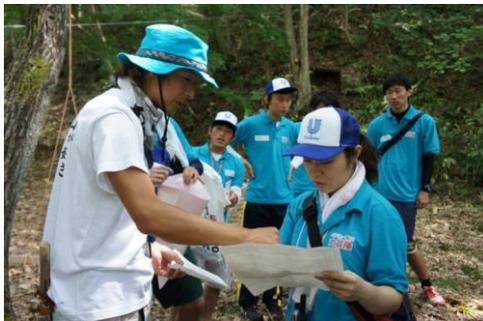
どの事業にも共通していることですが、震災や原発事故の影響によって、多くの子ども達はこの恵まれた自然から切り離されてしまいました。同じ県内でも、ほとんど原発事故の影響が無く、無傷で残った当地域の自然をできるだけ活用し提供することで、忘れかけた故郷の自然を思い出せるような取り組みを私達は大事にしています。

「大切なことは息の長い取り組みを続けて行くこと」

未曾有の被害をもたらした東日本大震災ですが、本県では原子力発電所の事故も重なり、未だ故郷に帰る目途も立たず、また人口流出の歯止めもかからないのが現状です。

いつ終息するか分からない原子力発電所の事故処理、放射性物質の除染作業を考えると、現在、私達が取り組んでいる活動を一過性で終わらせず、息の長い継続した取り組みにしていかななくてはなりません。それを実現するためには、自分達にできることをできる範囲で提供していくことだと考えています。

先にも述べたとおり、震災や原発事故の影響で切り離された福島の自然、引き裂かれた郷土の水や土、空気や緑に、当クラブの事業を通して再び触れ合ってもらい、素晴らしい福島の自然を心の中に持ち続けてほしいと願っています。



風化させないためにも、これらの取り組みを次の世代にしっかり伝えていかななくてはなりません。中学生、高校生、さらには20代の若者達がボランティアとして多くかかわっています

また、同じ県内でも直接的な被害が少なかった当地域は、ややもすると震災や原発事故が過去のものになりつつあるのも実情です。それを防ぎ、そして福島が一体となって復興を目指していくためにも、様々な事業に世代を越え、より多くの住民に参画していただくよう心掛けています。

多くの人々を巻き込み、「自分達にできる取り組み」の姿勢を崩さず、智恵子（*）が見た「本当の空」が福島に戻るまで、我々スポーツクラブは「がんばろうふくしま応援プロジェクト」を続けていこうと考えています。

3月11日、クラブハウスでは、毎年、追悼集会を開催
※写真は去年のもの



（*）高村智恵子・・・福島県で生誕した、当時は珍しい女性洋画家。彫刻家・詩人の高村光太郎の妻。1941年に光太郎が出版した詩集「智恵子抄」で著名。1914年、光太郎と結婚するものの、実家の破産等で精神を患い1938年他界。「智恵子抄」はその3年後に出され、智恵子は故郷の美しい自然に思いをはせて、安達太良山の上の青い空を「ほんとの空」と言っていたことが記されている。

以上